

変貌する 慢性肝疾患診療

—最適な栄養療法を実践するための最新情報—

特集にあたって

肝臓病診療は、長年の肝臓代謝研究、肝臓形態組織研究、ウイルス学を礎として取り組まれてきた。最近は、ウイルス性肝炎の克服、肝癌治療の免疫チェックポイント阻害薬、肝硬変の薬物・栄養・運動療法、アルコール対策、新たな代謝障害性脂肪性肝疾患の概念など目覚ましい変化と発展とともに混乱も起こりえる状況である。2023年6月に、欧米の肝臓学会から、代謝障害を加えた新たな脂肪性肝疾患の概念やスティグマを考慮した用語の変更が提案された。2024年2月に公表された厚生労働省の飲酒ガイドラインでは、アルコール代謝の個人差や性差を考慮した飲酒量の提言と全身臓器への影響が示された。

今回の特集は「変貌する慢性肝疾患診療」と題して、診療目標を肝硬変、肝癌の抑制に加えて他臓器がん、糖尿病、心血管系疾患、サルコペニア、フレイルなどへ広げたため多岐にわたった内容である。現在進行形の慢性肝疾患診療の最新知識を知って肝臓疾患を身近に感じていただき、日常の栄養管理に活用できるものとなることを願っている。

東海大学医学部附属東京病院 消化器内科学
白石光一